

[illegible]

拡大した日本語学校の中には十分な設備や教員をそろえることができずに、満足な教育ができない施設もあったようです。学生の中にも勉学よりもアルバイトで稼ごうと考える人も少なからずいたようです。

特に中国では改革開放の時代を迎え海外への自費留学が盛んになってきます。中国からの就学生は次のような推移をたどります。

	1984 年	1985 年	1986 年	1987 年	1988 年
中国人就学生	160	1,199	2,126	7,176	30,517
日本語学校数	49	89	143	218	330

1988年当時、CNI（国民一人当たりの所得）で比べると中国は日本の40分の1でした。簡単に言えば日本で1年間働けば中国での40年分の収入が得られたのです。後にバブル経済と呼ばれる時代でした。

増え続ける就学生に危機感を持った入国管理局は日本語学校の調査に乗り出します。上海総領事館は申請数の急激な増加に応じきれずに、11月にビザ発給を停止せざるをえなくなりました。

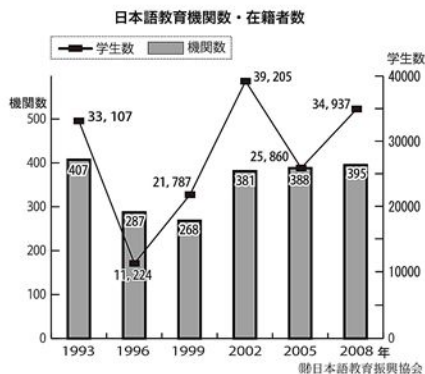
そのために早期ビザ発給を求める若者たちが総領事館を取り囲み、抗議のデモをする騒ぎが起きました。その数は日に日にふくれあがり1000人を越えることもあり
ました。

日本留学の希望がかなえられなければ、納付した入学金や授業料の返金を求めるのは当然です。しかし、申し込んだ日本語学校やブローカーが行方不明になったりして、返金を受けられなかった学生もかなりの数にのぼりました。被害額は2億円を超えていると言われています。政財界を中心に募金活動を行なった結果、返金できたのは半額程度だったと言われています。

(参考)『金色の夢—就学生という悲劇—』佐々木明 凡人社

各地に広がり始めます。その対象は、難民だけでなく、留学生、就学生、研修生、日系人、その家族、日本人の家族、定住者など多種多様な人々に広がっています。

日本語学校は平成3年（1991年）をピークに減少し始めます。

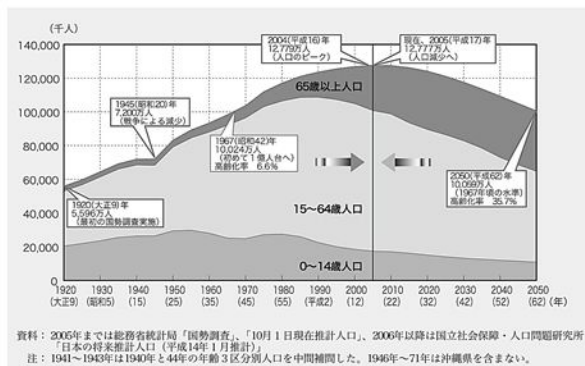


日本語学校での就学年限は最長2年までです。1992年頃から学生数が激減したことがわかるでしょう。申請数が減ったわけではありません。ビザ交付率が激減したのです。

学生数は1996年にはピーク時の3分の1になります。冬の時代を超えて日本語学校氷河期と関係者は自嘲するだけでした。

6. 人口減少社会

2006年元旦の新聞各紙の一面トップはすべて人口減少社会の到来を告げるものでした。



人口動態統計によると、2005（平成17）年は、出生数（106万2,530人）よりも死亡数（108万3,796人）が2万1,266人上回った。出生数と死亡数の差である自然増加数は、前年の8万2,119人より10万3,385人減少し、自然増加率（人口千対）はマイナス0.2と、前年の0.7を下回った。人口動態統計が現在の形式で調査を開始した1899（明治32）年以降、統計の得られていない1944（昭和19）年から1946（昭和21）年を除き、初めて人口の自然減となった。

（「少子化社会白書」より）

合計特殊出生率（1人の女性が一生の間に産む子供の数）という言葉が知られるようになったのは1989年。丙午の迷信により出産の抑制が生じた1966年の1.58を下回って1.57ショックと言われました。

少子高齢化社会の到来のもとで、外国人受け入れ問題は最大の長期的な政治課題になりました。いくつかの提案がなされています。

研修制度に限定しても①日本で人手不足の状態にある職種に限定して労働者を受け入れる（具体的には、高度人材、IT関連、看護師、介護士）、②研修ビザ制度を廃止して、期間を3年に限定した単純労働者を受け入れる、③積極的に移民を受け入

7. 留学生30万人計画

2008年初頭、福田康夫内閣は留学生30万人計画を提唱しました。2009年1月の第171国会に提出された入管法改正案では、就学・留学ビザの統合や在留カードによる在留外国人の在留管理システムが提唱されています。

「留学生30万人計画」骨子の概要



(鈴木 紳郎)

(情報の積極的な提供)

- 1の3 日本語教育機関は、当該日本語教育機関における教育活動等の状況について、広く周知を図ることができる方法によって、積極的に情報を提供するものとする。

(修業期間)

- 2 日本語教育機関の修業期間は、1年以上とする。ただし、必要に応じ、6か月以上とするものとする。

(学年の始期及び終期)

- 3 日本語教育機関の学年の始期及び終期は、各日本語教育機関においてその規則で定めるものとする。ただし、学年の始期は原則として2度までとするものとする。

(授業時数)

- 4 日本語教育機関の授業時数は、1年間にわたり760時間以上で、かつ、1週間当たり20時間以上とするものとする。

(生徒数)

- 5 日本語教育機関の収容定員は、教員数、施設及び設備その他の条件を考慮して、当該日本語教育機関の規則で定めるものとする。

(同時に授業を行う生徒数)

- 6 日本語教育機関において、日本語の一の授業科目について同時に授業を行う生徒数は、20人以下とするものとする。

(授業科目)

- 7 日本語教育機関においては、日本語学習の目的に応じて日本語教育を施すにふさわしい授業科目を開設するものとする。

(入学者選考)

- 7の2 日本語教育機関は、入学者の選考に関し、学習能力、勉強意欲、経費支弁能力等について適切な方法により確認するものとする。

(在籍管理)

- 7の3 日本語教育機関は、生徒の勉強、生活、資格外活動等について適切な在籍管理に努めるものとする。

(教員数)

- 8 日本語教育機関には、校長、主任教員及び次の表に定める数の教員（主任教員を含む。）を置くものとする。

生徒定員の区分	教 員 数
生徒数60人まで	3
生徒数61人以上	$3 + \frac{\text{生徒定員} - 60}{20}$

3. 学生募集・選抜

設立申請をすると半年以内に審査が行われ、日本語教育機関として法務省に告示されます。

学生募集の開始です。留学希望者は日本の周囲（中国、韓国、台湾）が圧倒しています。漢字圏と呼んでもいいでしょう。カリキュラムにそってパンフレット、募集要項を作成して各地で募集活動を行います。

◇国籍別在籍者数（平成 20 年 7 月 1 日現在）

中国	17,968	51.4%
韓国	10,528	30.1%
台湾	2,228	6.4%
ベトナム	607	1.7%
タイ	597	1.7%
ネパール	517	1.5%
インドネシア	328	0.9%
ミャンマー	249	0.7%
マレーシア	216	0.6%
スウェーデン	145	0.4%
その他	1,554	4.4%
計	34,937	

ふつうは、各地で営業している留学斡旋機関を訪ねてまわるところから始めます。

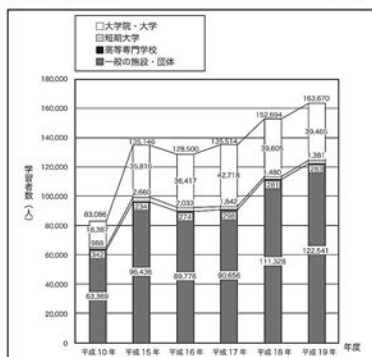
- (1) 韓国では留学院と呼ばれます。韓国は比較的交付率が高いこともあって応募学生数よりも募集数が多く、留学院に対して多額の募集手数料を支払う日本語学校も多いようです。
- (2) 中国では仲介機構とよばれます。政府の許可が必要な事業です。地域によって交付率に開きがあるし、応募学生層も異なります。申請時の必要書類も違う場合があります。経験の乏しい学校には応募書類の偽造を見極めるのは難しいでしょう。学生が仲介機構に手数料を支払うのがふつうでしたが、最近では学校側で募集手数料を支払うケースも出てきました。

第5章 国内の日本語学習者

国内の日本語学習者は、量的に拡大するだけでなく、国籍、日本語学習の目的、年齢など多様化しています。滞在する地域を多い順に紹介します。東京都、神奈川県、大阪府、愛知県、千葉県、京都府、埼玉県、福岡県、兵庫県、静岡県、岡山県、広島県、宮城県。以上が2,000人以上の学習者がいる都府県です。

◇日本語学習者数の推移

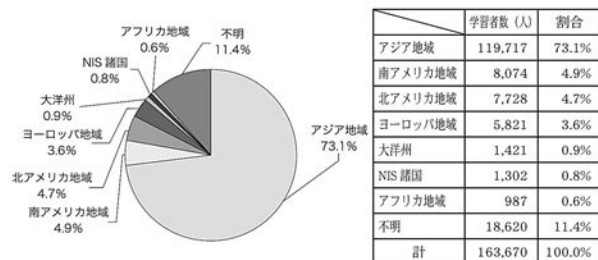
(単位：人)



	平成10年	平成15年	平成16年	平成17年	平成18年	平成19年
大学院・大学	18,387	35,816	36,417	42,718	39,605	39,465
短期大学	988	2,660	2,033	1,842	1,480	1,381
高等専門学校	342	234	274	298	281	283
一般の施設・団体	63,369	96,436	89,776	90,656	111,328	122,541
合 計	83,086	135,146	128,500	135,514	152,694	163,670

http://www.bunka.go.jp/kokugo_nihongo/jittaihouwa/h19/gaikoku_6_03.html

◇日本語学習者の出身地域別割合



http://www.bunka.go.jp/kokugo_nihongo/jittachousa/h19/gaikoku_6_05.html

本章では日本語学校が関わる日本語教育の例を紹介します。日本語学校の学習者は文化庁の統計では「一般の施設・団体」に含まれています。

就学コース（就学ビザ発給・4 時限週 5 日 2 年コース）、集中コース（4 時限週 5 日 3 ヶ月コース）の他に少人数グループ授業や出張授業も行っています。ビジネスマン、地域生活者、研修生、JSL の子どもの例も紹介します。

I 就学コースの基本カリキュラム

就学生を対象にした日本語学校の時間割例です。本例では日本語の習得度に対応して 9 段階のレベルを想定しています。1 年を 4 期に分けます。各期の学習期間は 3 ヶ月間です。

◆1 期の時間割例

月	火	水	木	金
発音・文字	発音・文字	発音・文字	発音・文字	発音・文字
総合日本語	総合日本語	総合日本語	総合日本語	アチーブメントテスト
総合日本語	総合日本語	総合日本語	総合日本語	聴解・会話
タスク	タスク	タスク	タスク	作文

◎各科目目標

発音：日本語の拍・アクセントに慣れる。

文字：ひらがな、カタカナが書ける。日常で使用する漢字100字が読め、書ける。

総合日本語：『みんなの日本語Ⅰ』を使用。日常生活で必要最低限のコミュニケーションができる。

会話（口頭表現）：「買い物」「道・場所を聞く」「予約」などサバイバルな場面に必要な語彙や表現を習得し、コミュニケーションできる。

聴解：日常の必要な場面での会話が聞き取れる。

作文：自分の身の回りのことについて簡単に記述できる。

※タスクとは

コミュニケーションは通常何かの目的を達成するために行われます。その何かを達成するための課題がタスク練習です。月曜日から木曜日までのタスクは、学んだ文型や表現を実際にコミュニケーションの中で使えるようにするための活動です。

◆2 期の時間割例

月	火	水	木	金
発音・文字	発音・文字	発音・文字	発音・文字	発音・文字
総合日本語	総合日本語	読解/聴解	総合日本語	アチーブメントテスト
総合日本語	総合日本語	総合日本語	総合日本語	タスク・会話
タスク	タスク	タスク	タスク	作文

◎各科目目標

発音：日本語の拍・アクセントに慣れる。

文字：日常で使う漢字300字が読み、書ける。

総合日本語：『みんなの日本語Ⅱ』使用。日常生活でコミュニケーションができる。

会話（口頭表現）：身近な場面でコミュニケーションがはかれる。実践的な場面に即した語彙・表現を習得し、日常生活で運用できる。

聴解：ナチュラルスピードの会話に慣れる。日常の中で自分にとって必要な情報を聞きとることができる。

読解：長文を読むことに慣れる。未習語彙や構文にとらわれず、全体を読み進めて大意が取れる。

作文：自分の身の回りのことについて、記述できる。ローマ字、記号が正しく使える。横書き原稿用紙が使える。

大学や専門学校、大学院で学ぶためには、4技能を統合した課題達成型の教室活動を初級のうちから実践していく必要があるでしょう。タスク活動では、既習の文法や語彙を運用できるようになるだけでなく、自分の考えをどう論理的に表していくことができるようになるか、教師は工夫していく必要があります。

◆ 3 期の時間割例

月	火	水	木	金
発音・文字	発音・文字	発音・文字	発音・文字	発音・文字
総合日本語	総合日本語	総合日本語	読解	アチーブメントテスト
総合日本語	総合日本語	総合日本語	総合日本語	文法
総合日本語	総合日本語	総合日本語	総合日本語	文法

◎ 各科目目標

発音：単音の正確な発音ができる。

文字：漢字500字が読み、書ける。横書きで文が書ける。

総合日本語：『J-Bridge』使用。待遇関係を意識したコミュニケーションがはかれる。日常生活に支障のない程度でのコミュニケーション力が習得できる。

この期に限って、聴解、作文、会話は独自の科目とせずに総合日本語に組み込んでいる。

読解：いろいろなタイプの文章を読み、目的にあった読み方の基礎をつける。

文法：初級文法を網羅するとともに、作文、会話等の練習を組み込む。

3期は中級への移行期でもあります。既習の文法項目を組み合わせることで表現できるようになっていきます。また、抽象的な語彙や表現も少しずつ学習していきます。

◆ 4 期の時間割例

月	火	水	木	金
発音・文字・速読	発音・文字・速読	発音・文字・速読	発音・文字・速読	発音・文字・速読
総合日本語	総合日本語	聴解	総合日本語	アチーブメントテスト
総合日本語	総合日本語	会話	総合日本語	総合日本語
総合日本語	総合日本語	会話	総合日本語	総合日本語

◎各科目目標

発音：単音の正確な発音ができる。

文字：漢字500字が読み、書ける。縦書きで文が書ける。

総合日本語：『J-301』使用。（初級文型の復習と整理をしながら）日常生活でより円滑な会話ができる。話し言葉から書き言葉への移行ができる。他者・他国の多様性に気づき、またそれを受け入れることができる。

会話（口頭表現）：人間関係や場面に対応した表現や効果的な相槌、文末表現を用いて会話を積極的に展開させることができる。

聴解：一定の長さの情報文を聞き、必要な情報を得ることができる。

読解：全体を一定のスピードで読み進めることができる。目的にあった読み方の基礎ができる。

作文：既習の言葉を使って、自分の意図を表現できる。簡単な手紙が書ける。メモが取れる。簡単な書式に必要な事項を入力できる。

この期からは、総合日本語のテキストも話題シラバスに基づいたものになり、教室活動もだいぶ変わってきます。中級ではさまざまな教室活動を通し問題解決能力を高め、自分の思考を論理的に表現できるようになることをめざしています。協働学習に基づいたピアラーニングが教室活動の中心になっていきます。

◆ 5 期の時間割例

月	火	水	木	金
発音・文字	発音・文字	発音・文字	発音・文字	発音・文字
会話	聴解	読解	作文	アチーブメントテスト
総合日本語	プロジェクトワーク	総合日本語	総合日本語	総合日本語
総合日本語	プロジェクトワーク	総合日本語	総合日本語	総合日本語

◎ 各科目目標

発音：自然で聞きやすい日本語が発音できる。

文字：漢字 700 字が読め、書ける。

総合日本語：より滑らかなコミュニケーション力と表現力をつける。

中級表現文型の習得と運用ができる。

他者（との比較）を通して、自己を知り分析する力を養う。

会話（口頭表現）：状況を分析し、適当な表現や語彙を選択しながら自然な会話が選択できる。

聴解：自然なスピードの音声情報から必要な情報が得られる。要点を書き取りながら聞くことができる。

読解：速読（スキヤニング・スキミング）の基礎力を固める。

作文：まとまった構成で文章を綴ることができる。表現しようとする

テーマについて適当な資料を選び、まとまりある構成で表現できる。

中級以降のクラスにおいて、さまざまなプロジェクトワークをデザインし実施しています。中級前半では小学校との交流など、地域交流プロジェクトワークを行っています。

◆6 期の時間割例

月	火	水	木	金
発音・文字	発音・文字	発音・文字	発音・文字	発音・文字
作文	聴解	会話	聴解	アチーブメントテスト
総合日本語	総合日本語	総合日本語	日本事情	総合日本語
総合日本語	総合日本語	総合日本語	日本事情	総合日本語

◎各科目目標

発音：自然で聞きやすい日本語が発音できる。

文字：漢字1000字が読め、書ける。

総合日本語：『J501』後半使用。より滑らかなコミュニケーション力と表現力をつける。

中級表現文型の習得と運用ができる。

他者（との比較）を通して、自己を知り分析する力を養う。

会話（口頭表現）：状況や立場に応じて会話が展開できる。予測外の展開にも対応しながら、会話をすすめることができる。

聴解：自然なスピードの音声情報から必要な情報を得る。要点を書きとりながら聞くことができる。

読解：かなりの速さでさまざまな読みものを読むことができる。

作文：まとまりある構成で読み手に分かりやすく表現できる。

この期では、日本事情の一環としてホームビジットを行っています。実際の訪問は1日2時間程度ですが、訪問準備、訪問、そのあとのお礼状、レポートなど1期をかけています。

◆7 期の時間割

月	火	水	木	金
発音・文字	発音・文字	発音・文字	発音・文字	発音・文字
聴解	読解	総合日本語	総合日本語	アチーブメントテスト
総合日本語	作文	総合日本語	日本事情	日本事情
総合日本語	作文	総合日本語	日本事情	日本事情

◎各科目目標

発音：自然で聞きやすい日本語が発音できる。

文字：漢字1300字が読め、書ける。

総合日本語：『生きた素材前半』使用。一般的な話題について話し合うことができる。日本社会に関心を持ち、社会問題を客観的に捉えることができる。

会話（口頭表現）：目的に合った内容が得られるように（方向をコントロールしながら）会話が展開できる。得られた情報を効果的に伝えることができる。短時間で考えをまとめて、簡潔に表現できる。

聴解：日常的に聞く日本語（不明瞭な発話や不完全な構文など）に対応できる。

読解：目的に合わせた読み方でさまざまな読みものを母語に近いスピードで読むことができる。

作文：まとまった構成で文章を綴ることができる。

一定の時間内で自分の考えをまとめ、表現できる。

読んだり聞いたりした情報の要旨をまとめ、読み手にわかりやすく表現できる。

◆ 8 期の時間割例

月	火	水	木	金
発音・文字	発音・文字	発音・文字	発音・文字	発音・文字
聴解	日本事情	総合日本語	読解	アチーブメントテスト
総合日本語	総合日本語	総合日本語	会話	作文
総合日本語	総合日本語	総合日本語	会話	作文

◎ 各科目目標

発音：自然で聞きやすい日本語が発音できる。

文字：漢字1500字が読め、書ける。

総合日本語：日本社会に暮らす人々と一般的な話題について話し合うことができる。日本社会に関心を持ち、社会問題を客観的に捉えることができる。

会話（口頭表現）：論理立てて意見を述べる基礎力をつける。聞き手を説得できる展開、話し方ができる。

聴解：目的に応じて、要点をまとめ、必要な情報を正確に聞きとることができる。

読解：一定のスピードで文章を読み続けることができる。テキストの内容、課題、時間に応じた読み方ができる。

作文：自分で調べた事柄をレポートにまとめることができる。

物事の相違点や問題の指摘などを論理的にまとめられる。

◆9期の時間割例

月	火	水	木	金
発音・文字	発音・文字	発音・文字	発音・文字	発音・文字
聴解	読解①	日本事情	読解②	アチーブメントテスト
総合日本語	総合日本語	総合日本語	会話	作文
総合日本語	総合日本語	総合日本語	会話	口頭表現

◎各科目目標

発音：自然で聞きやすい日本語が発音できる。

文字：漢字2000字が読め、書ける。

総合日本語：『日本への招待』使用。多面的な視野を身につけ、ステレオタイプからの脱却を図る。現代社会が抱える「多様化」という課題に関心をよせ、テーマを探し、それについて提言ができる。

日本社会事情について深く考察し、さまざまな人々と意見交換、興味ある事柄を積極的にリサーチができる。

会話（口頭表現）：論理立てて意見を述べることができる。

説得力のある話し方、意見展開ができる。

聴解：目的に応じて、要点をまとめ、必要な情報を正確に聞きとることができる。

読解：目的に合わせた読み方でさまざまな読みものを読むことができる。

作文：高度な読みものの内容を客観的に記述したり描写したりできる。

論理的な展開によって、文章を綴ることができる。

上級になると、総合日本語で教科書は設定しますが、それ以外はほとんど生教材を使うようになります。読解では小説を読んだり、聴解ではニュースを聞いたりするなど、生の日本語を通した学習が中心になっていきます。またこの期のプロジェクトワークとして、グループで問題を発見し調査したことをパワーポイントにまとめて発表する等があります。

期	レベル	到達目標
第1期	入門	日本で生活するのに必要な最低限の会話能力が身につく。
第2期	初級	日常的な会話はだいたいこなせる。基本文型を使って意見を述べたり文章を書いたりすることができる。
第3期	初中級	
第4期	中級準備	日常会話に不自由はなくなる。専門用語を含めて語彙が増加し、専門学校への入学が可能な日本語力が身につく。
第5期	中級	
第6期		
第7期	上級前半	日本語で支障なく意思の疎通ができる。
第8期	上級後半	大学受験が可能な日本語能力が身につく。
第9期	超級	
第10期		

初級から学ぶ場合なら長期学習が考えられるので、シラバスは文法事項を確実に学べるように構造シラバスを選択します。漢字指導、会話、作文、読解など、文法以外のデザインしていく必要があります。

教科書はクラスの目標が可能になるものを選びます。決定されたシラバスに最も有効だと思われる教材を選択し、足りないところを副教材で補うようにします。初級教科書を6か月で終わるためには、教科書の中の何を学習し何を学習しないかの選択も必要になってきます。

一期（3ヵ月間）、月間、週間の予定が決まると、一日の授業内容と一時間ごとの教授内容も決まってきます。一回一回の授業でも「～できるようになる」という目標が立てられ、その目標が実現できるような教室活動が行われます。文型練習もありますが、コミュニケーション力をつけるために談話練習やロールプレイなどのタスク活動で具体的な場面で実際に使えるように練習していきます。評価は文法事項の定着度を測るならペーパーテスト、実際に使えるようになっているかを測るために口頭テストも頻繁に行っていきます。毎日の小テスト、宿題などでも評価を行います。

中級以降になると、総合教科書の多くが話題シラバスで構成された4技能統合型のテキストです。まず本文を読み、内容要約、本文文型、本文に基づく会話、まとめの作文などと続く場合が多くなります。技能毎の授業も充実してきます。中級か

2. 大学院進学クラス

近年、母国で大学を卒業し、日本の大学院をめざして日本語学校に入学する学生が増えています。そこで大学院進学クラスが設定されています（4月～7月を除く9か月間）。このクラスでは、大学院に合格するためだけでなく、学びの過程と学習者の主体性を重視し、研究に必要な思考力や表現力を養うことを到達目標に授業を進めています。クラス活動では協働的な学びを中心に置くことを特徴としています。

	7月期 (7月～9月)	10月期 (10月～12月)	1月期 (1月～3月)
授業内容	<ul style="list-style-type: none"> 研究計画書のデザイン 研究資料の収集方法 大学院の探し方 論文の読み方 レポートの書き方 	<ul style="list-style-type: none"> 面接試験練習 小論文の書き方 研究計画書完成 論文の読み方 	<ul style="list-style-type: none"> 入学後の研究方法や研究発表の方法など 論文の書き方 研究発表プロジェクトワークなど

一般の就学クラスとは異なる科目についてご紹介します。まず「研究計画演習」です。この授業はクラスの中で一人ひとりの研究計画書（最初はなぜそのテーマかという動機文）をクラスで検討していきます。たとえば、一人の学生が書いてきた研究計画書をみんなで読み、質問をしたり意見を述べたりしていく、その過程で筆者は気づいたことや考えたことを生かし書きなおしていく、この過程を繰り返すことで研究計画（テーマから研究動機、背景目的、内容等）を仕上げていくという教室活動です。

研究計画書という、受験に必要な書類を書く作業をクラス活動にしたのには二つの理由があります。今までは研究計画書指導というと、授業外に一人の教師と一人の学習者で対一の関係で行われるのが普通でした。しかし、・教師の添削という要素が強くなってしまいます。添削中心になってしまうと、学習者の主体性も削がれ、受け身になってしまいます。・アドバイスをするのが教師だけでは視点に多様性が生まれず、考え方が狭くなってしまいます。

3. ビジネス日本語クラス

期間で大学を卒業した学生の中には、日本での就職を希望する学生も増えてきました。日本語学校で日本語や日本事情を学びながら就職活動をしたい、そのようなニーズに基づき、ビジネス日本語クラスは開設されました。

ビジネス日本語クラスは仕事で母語と日本をつなぐ、ブリッジ人材を育成するクラスです。日本ビジネス事情、ビジネスマナーなどの授業を通して、日本語でビジネスを円滑に遂行するための下地を作っていきます。

	7月期 (7月～9月)	10月期 (10月～12月)	1月期 (1月～3月)
授業内容	就職活動に必要な 日本語力養成 <ul style="list-style-type: none"> 履歴書、職務経歴書の書き方 面接試験練習 就職活動の進め方 	ビジネス日本語の 基本習得 <ul style="list-style-type: none"> ビジネス会話 ビジネスマナー ビジネス文書 日本ビジネス事情 敬語、待遇表現 	日本でのビジネス シーンで活用できる 日本語力養成 <ul style="list-style-type: none"> ビジネス会話実践 BJT（ビジネス日本語能力テスト） 演習 など

就学コース＝予備教育といってもその内実は日本語学校によってさまざまです。試験対策に終始しているところもあれば、コミュニケーション力養成を重視し問題解決能力の構築をめざすところまであります。その中で学ぶ学習者も、一人一人異なります。大切なことは、私たち日本語教師がなぜこの授業を行っているのかという自覚を持つこと、学習者の一人一人の人生と向き合うということではないでしょうか。

4. 日本語学校で学ぶビジネスマン

◎デイビットさんの場合(保険業界の企業に勤務 出身地：イギリス)

現在31歳です。英語、フランス語、ドイツ語、イタリア語、スペイン語、ポルトガル語に堪能です。大学時代小津安二郎の映画をきっかけに日本と日本語に興味を持ち、卒業後来日しました。

■来日当初

英会話学校で講師をしながら、集中日本語コースで学びました。週5日、午後3時間の授業です。集中コースは体系的に日本語を学びたいと考える人たちのクラスで、日本で長く働きたいと思っていたデイビットさんにとってはちょうどいいクラスでした。英会話学校も夕方からの勤務がほとんどだったので、欠席することもなく家での学習時間も確保できました。特に漢字に興味を持ち、週1回の漢字テストではいつも満点を取るほどでした。確実に基礎を積み上げ、1年後には4技能(話す・聞く・書く・話す)とも日本での生活には全く困らないほどになっていました。

◆初級の頃のデイビットさんのクラスの時間割(集中日本語コース)

月	火	水	木	金
発音・文字				
作文	総合日本語	総合日本語	総合日本語	アチーブメントテスト
総合日本語	総合日本語	総合日本語	総合日本語	会話
総合日本語	タスク	タスク	タスク	会話

■1年後 金融企業に転職する

1年後、デイビットさんは大学時代の専門性を生かし外資系の金融企業に就職しました。日本語学習も毎日の集中クラスから、週1回のプライベートレッスンに変更しました。プライベートレッスンは週1回90分、就職したばかりの頃は生活のリズムに慣れず、欠席することもありましたが、リズムができてくると毎回楽しそうに通うようになりました。授業内容は読解中心で、テキストとしては『テーマ別中級から学ぶ日本語』(研究社)を使用しました。漢字の学習は相変わらず非常に熱心

5. 技術研修生

◎25歳から35歳の中堅社員15名（男性10／女性5）

（出身国タイ：英語は日常会話程度）

機器メーカー技術研修生の事例です。1年間で日本の技術をマスターし、帰国後は若手育成に繋げるというのがこの研修の目的です。日本語レベルは全員ゼロ初級。日本語の研修期間は2ヶ月で、月曜日から金曜日まで、1日6時間（午前3時間、午後3時間）の全250時間です。

◆スケジュール

月	火	水	木	金
発音・文字				
語彙	会話	聴解	読解	アチーブメントテスト
総合日本語	総合日本語	総合日本語	総合日本語	作文
総合日本語	総合日本語	総合日本語	総合日本語	(プロジェクトワーク)

※2ヵ月後、成果発表会としてスピーチ大会を行う。また書き上げた作文を文集としてまとめる。

宿舎がついている研修施設に教師は2ヶ月間出張し、日本語の集中特訓を行いました。初回のオリエンテーションはタイ語通訳を介して実施されましたが、その後は基本的には日本語で授業を行います。カリキュラムは構造シラバスに基づきながらも、機能、場面シラバスを取り入れたものを作成しました。2ヶ月後は実際に工場に入り日本語で技術研修を行うため、工場で日本語を扱うシーンを重視し、初級文型や表現を導入、学習しました。特別な語彙も多く見聞きするため、「語彙」の教科を設け「安全、危ない、巻き込みに注意、ばね、車輪、…」の語彙学習も実施しました。

2ヶ月後の成果発表会では「日本に来てからの自分」や「これからの抱負」などを全員が日本語だけでスピーチ発表しました。

日本語教師といっても、日本語学校や専門学校、ボランティア、ビジネスパースなど支援形態はさまざまです。今回の集中研修も決してまれなケースではありません。学習者のニーズ分析を皮切りに、カリキュラムデザイン、その実施、評価、

ーシャさんの場合、日常会話は中級クラスに入れても、読み書きは初級クラスで精一杯なのです。

結局、集中日本語コースの2期のクラスから入ることになりました。4技能の力に偏りがある場合、何期に入れるかの診断は容易ではありません。

ナターシャさんのニーズの中心は読み書きにあり、そういう点では初級からがびったり。日本で暮らしていくことを考えると、文法的な事柄を認知的に学び直す時期があってもよいでしょう。会話も、表面的なやりとりでは差し支えなくても、何らかの話題について深く話そうとするとうまくコミュニケーションができません。

以上がナターシャさんに2期を勧めた理由です。それでも漢字学習は自分自身で学習していく必要があります。受講前はもう少し上のクラスを希望していたのですが、数日後にはナターシャさん自身からこのクラスで続けたいとの希望をいただきました。

集中日本語コースの各期到達目標

期	レベル	到達目標
第1期	入門	生活に必要な最低限のコミュニケーション力が身につく。(自己紹介, 買い物, レストランでの注文, 友人を誘うなど)
第2期	初級 1	日常生活に支障のない日本語が身につく。(道を聞く, 許可を求める, 過去の経験を話すなど)
第3期	初級 2	状況に合わせて丁寧に話したり, カジュアルに話したりできる。(丁寧に依頼する, 感謝の気持ちを述べる)
第4期	初中級	初級文型の復習をし, それを使いこなす力が身につく。自分の意見を述べたり, 作文を書いたりすることができる。
第5期	中級	より滑らかなコミュニケーション力と表現力が身につく。文章の型・構成を意識して読み, 書くことができる。
第6期		
第7期	上級	専門分野だけでなく, 一般的な話題について話すことができる。新聞や広告, 雑誌の記事から大意がとれる。
第8期		

◆ナターシャさんのクラスの時間割例

月	火	水	木	金
発音・文字				
聴解	総合日本語	総合日本語	読解	アチーブメントテスト
会話	総合日本語	総合日本語	総合日本語	作文
会話	総合日本語	総合日本語	総合日本語	作文

7. 日本語学校に関わる年少者教育

日本語を第二言語として学ぶ子どもたち（JSL）の例です。

7-1 公立小学校

◎ケン君の場合

公立小学校2年 出身地：アメリカ 父：日本人 母：ブラジル人

■来日当初

日常生活では、母とはポルトガル語、父とは日本語と英語でコミュニケーションをとります。アメリカで教育を受けたので、読み書きは英語で受けていました。

一見、日本語でのコミュニケーションは問題ないように見えます。しかしながら、まとまった内容は理解することが困難でした。特に受身や主語がはっきりしない文章であると、動作主が理解できないことが多かったようです。文字は全く理解できませんでした。

■～6ヵ月 「講師による取り出し授業」(週2回)

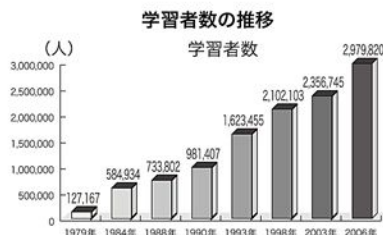
目標：まとまった内容が理解できる。

内容：読み書きを中心に授業を行った。

* * * * *

第6章 海外の日本語学習者

日本語学習者数が最も多いのは、韓国の約91万人であり、世界の日本語学習者の約3割(30.6%)を占めていることになります。第2位は中国で約68万人(23.0%)、第3位はオーストラリアで約37万人(12.3%)。この順番は前回調査から変わらず、この3か国で世界の日本語学習者数の3分の2を占めています。第4位のインドネシア(27万人)、第5位の台湾(19万人)を加えた五つの国・地域で、世界の日本語学習者の5分の4を占めていることになります。



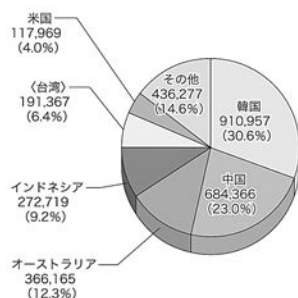
学習者数上位10か国の前回調査との変化

順位	国・<地域>	学習者数 (2006年)	学習者数 (2003年)	増減率 (%)
1	韓国	910,957	894,131	1.9
2	中国	684,366	387,924	76.4
3	オーストラリア	366,165	381,954	▲4.1
4	インドネシア	272,719	85,221	220.0
5	<台湾>	191,367	128,641	48.8
6	米国	117,969	140,200	▲15.9
7	タイ	71,083	54,884	29.5
8	<香港>	32,959	18,284	80.3
9	ベトナム	29,982	18,029	66.3
10	ニュージーランド	29,904	28,317	5.6
	全 体	2,979,820	2,356,745	26.4

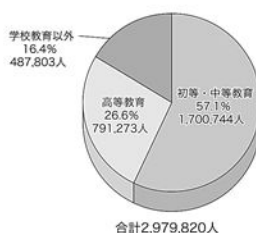
注) ▲は減少したことを示す。

<http://www.jpf.go.jp/j/japanese/survey/result/dl/2006-1.pdf>

学習者の国別構成



教育段階別学習者数



<http://www.jpj.go.jp/j/japanese/survey/result/dl/2006-3.pdf>

国際交流基金『海外の日本語教育の現状
日本語教育機関調査・2006年』より

1. 中国・天津 —外国語大学—

(1) 王さん (19歳・女性)

中国・天津の外国語大学で日本語を学んでいる1年生です。日本では「天津甘栗」で知られるこの街は北京から1時間弱。近年は欧米や日本、韓国の企業進出がめざましく、それにともなって外国語教育が盛んに行われています。王さんが通う大学は、中国全体の日本語教育をリードする機関であり、卒業生の就職率はほぼ100%。多くが地元の日系企業に就職しているエリート校です。広い校内には学生生活を支える食堂、スーパー、本屋、郵便取扱所、さらにレンタルビデオ屋など必要な設備が揃っています。

王さんは天津出身ですが、大学が全寮制のため6人部屋の寮生活を送っています。プライバシーのない今の環境は、一人っ子政策の下で甘やかされて育った王さん世代にとって決して快適なものではありません。当然ながらトイレや浴室といった設備にも不満はありますが、慣れてくると仲の良い友だちといつも一緒にいられることが嬉しく、困った時にも助け合えるため「寮生活もそれなりに楽しい」と感じ始

すチャンスがありませんのは残念ですが、日本人の先生に積極的に話すようにしました。

1、2年生の間は「必ず日本に留学する」という強い気持ちで、夢中になって勉強し自分でもある程度話せるようになったと思いました。3年生になって、そろそろ日本へ国費留学生として行くための試験が現実味を帯びてくると焦りが出てき始めました。試験に合格するためには、大学入学試験レベルの文章を理解できなければなりません。毎年日本への国費留学生として選ばれるのは国内でもほんの数人です。その試験以外では、キルギスから日本への留学のチャンスはまずありません。経済的に自費で旅行をするのは不可能です。

初級は終えたとはいえ中級の壁は厚く、毎日追いかけるように出てくる漢字学習や、会話ではあまり使うことのない細かい表現の学習にも少し疲れてきました。先生の説明を聞いても、よく使い方が分からないことがあります。本当はもっと勉強しなければならないのに、以前より自宅学習時間が減ってしまいました。他の言語、たとえば韓国語や中国語を学んでいる友達のように日本語を使う仕事を見つけるチャンスはほとんどありません。だんだん「どうして日本語を選んだのか」、「このままで自分の将来はあるのか」と思うようにもなりました。

ヌルグリさんの大学の到達レベルと使用教材

学年	レベル	使用教材
1年	初級1	『みんなの日本語』Ⅰ（『漢字練習帳』『初級で読めるトピック25』『聴解タスク25』）
2年	初級2	『みんなの日本語』Ⅱ（同上）
3年	中級前半	『文化中級日本語』Ⅰ
4年	中級後半	『文化中級日本語』Ⅱ
5年	上級	生教材

1、2年生時間割例 メインテキスト『みんなの日本語』Ⅰ Ⅱ

月	火	水	木	金
課の語彙テスト	練習C	文型指導②	本文会話	アチーブメントテスト
文型指導④	会話タスク	練習C	読解	聴解タスク

9. ブラジル –日系団体経営の日本語学校–

ブラジルの特徴として、学校教育以外の機関で日本語教育が行われていることが挙げられます。国際交流基金の2006年度の調査でも、日本語教育機関の約75%が日系団体を中心とする学校教育以外の機関です。

(1) ハナコさん（10歳）

日系三世の10歳の女の子です。祖父母が話す日本語を少しでも話せるようになってほしいという両親の願いから日本語学校に通うことにしました。

ハナコさんは他の子どもと同様に、ひらがなの勉強からはじめ、今では中級のクラスに通っています。ハナコさんは日本語の勉強より、盆踊りとか折り紙の授業のほうが楽しいと思っています。けれども、漢字の勉強や語彙のテストにはまじめに取り組んでいます。ハナコさんはおばあさんの祖国である日本にいつか行ってみたいと思っています。

ハナコさんが通う日本語学校の時間割は以下のようになっています。

ハナコさんの学校の時間割

	月	火	水	木	金	土
朝	① 幼稚園 ② 初級 I	① 幼稚園 ② 初級 I	① 幼稚園 ② 初級 I	① 幼稚園 ② 初級 I	① 幼稚園 ② 初級 I	
昼	③ 幼稚園 ④ 初級 I ⑤ 中級 I	③ 幼稚園 ④ 初級 I ⑤ 中級 I	③ 幼稚園 ④ 初級 I ⑤ 中級 I	③ 幼稚園 ④ 初級 I ⑤ 中級 I	③ 幼稚園 ④ 初級 I ⑤ 中級 I	⑦ 初級 II
夜	⑥ 成人	⑧ 個人 ⑨ 会話	⑥ 成人	⑨ 会話	⑥ 成人	

□ はハナコさんの授業 ①～⑥は学習者数5名程度 ⑦、⑧は10名程度 ⑨はプライベートレッスン

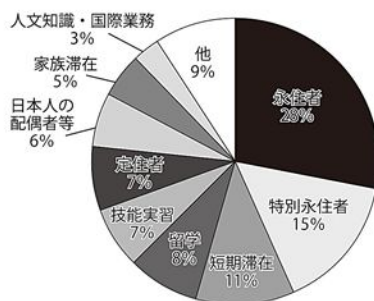
* 初級、中級クラスでは主にブラジルで発行されているテキストを使用

◆朝・昼のクラス

朝、昼のクラスの学習者はほぼ全員が日系子弟です。年少クラスでは5歳以下の子供が、初級、中級クラスでは6～15歳の生徒が日本語を学んでいます。日系子弟

補 章

1. 国内の外国人数



総外国人数（在留資格別）

永住者	664,949	28%
特別永住者	363,893	15%
短期滞在	251,187	11%
留 学	196,942	8%
技能実習	162,157	7%
定住者	159,596	7%
日本人の配偶者等	148,431	6%
家族滞在	123,462	5%
人文知識・国際業務	76,048	3%
他	212,796	9%
総 数	2,359,461	

（法務省入国管理局 2014 年 6 月末日）

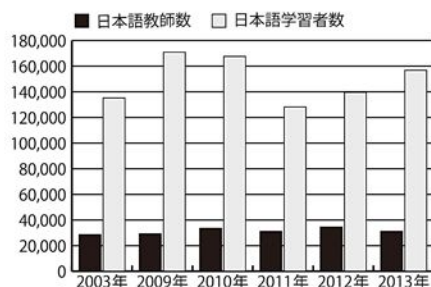
2. 国内の学習者数

国内の日本語学習者数は、文化庁が毎年11月1日現在の状況を調査して公表しています。

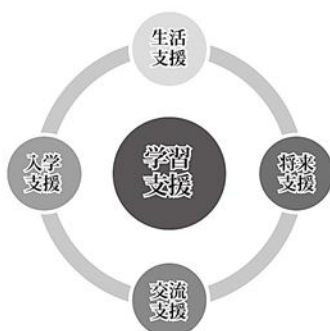
	機関・施設等数	教師数	学習者数
大学等機関	560	5,439	51,399
地方公共団体・教育委員会	270	4,087	14,014
国際交流協会	296	8,201	17,405
上記以外	835	13,447	74,025
合 計	1,961	31,174	156,843

(2013 年 11 月 1 日現在)

過去5年間の推移を確認しましょう。対比した10年前の2003年は留学生が十万人に達した翌年です。2008年、リーマンショック後に日系人定住者が帰国して学習者が減りました。2011年の東日本大震災及び福島原発の事故により激減したのは、主として日本語学校の語学留学生です。



	2003年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年
日本語教師数	28,511	29,190	33,416	31,064	34,392	31,174
日本語学習者数	135,146	170,858	167,594	128,161	139,613	156,843



これに通常の会社組織にもあるような、総務、経理、財務、労務、法務などの一般的なマネジメント業務が必要です。通常の日本語学校では、中核業務である授業（学習支援）は、非常勤講師の役割です。

これらの全体をコントロールする者をファシリテーターと呼んでいます。日本語教育に関する知識、経験を持ってカリキュラム作成、クラス編成、教員配置など教務の根幹を担って、非常勤講師や新人講師の指導をしながら総務など学校全体の運営にも関与します。

2014年には語学教育に特化したISO29991の規格も始まりました。厚生労働省、文部科学省等もこれに類する規格を検討しています。

(3) 東日本大震災・東京電力福島第一原子力発電所事故の影響

2011年3月11日、観測史上日本最大の地震が三陸沖で発生し、巨大な津波が発生しました。東北から関東にかけて甚大な被害をもたらしたので東日本大震災と呼ばれます。

これにより東京電力・福島第一原子力発電所は多大な損傷を受け、炉心溶融が発生しました。周辺地域の相当な範囲に放射線が飛散し、それから4年経過した現在でも広範囲の立ち入り禁止地区があります。

震災や原発事故の状況は世界中に報道されました。

在学中の留学生のなかに帰国する学生が出始めました。パソコン、スマホなどによるメール等で情報のやりとりは容易な時代です。母国の両親から帰国せよとの指示が届くのです。4月入学予定者からも続々と入学を辞退する旨の連絡が来ます。7月期、10月期の入学希望者も激減しました。

外国人犯罪キャンペーンによる影響が薄れ、2006年以後回復しつつあった日本語学校への留学生は激減しました。

	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	※2013年	※2014年
総学生数	34,937	42,651	43,669	33,239	29,235	37,918	43,667
中 国	17,968	26,632	29,271	22,408	18,093	18,250	16,188
韓 国	10,528	8,360	6,708	3,428	2,675	2,368	2,081
台 湾	2,228	2,304	1,924	1,395	1,425	1,425	1,837
ベトナム	607	847	1,087	1,410	2,039	8,435	13,758
ネパール	517	839	943	1,221	1,371	3,095	4,779

上記は日本語教育振興協会に公表された学生数です。(各年7月1日現在)

2012年は震災・原発事故前の2010年に比べて3分の2に激減しました。

2013年以後は回復してきました。

※なお、上記の数字のうち2013年以後は不正確です。全体の実数は表よりも多いと思われます。日本学生支援機構によれば2014年5月1日現在47,167人です。

(4) 語学留学生の変化

世界の留学生は増え続けています。

中国を代表として途上国の中に著しい経済成長を示す国々が現れました。経済成長が教育水準の向上に結び付き、それが世界の留学生の増加につながりました。経済成長の予測をもとにして2020年の世界の留学生総数を600万人と予測する試算があります。その5%が日本への留学生になるとの発表が2008年の留学生30万人計画です。

特に中国からの留学生の生活ぶりは、従前と大きく違ってきました。大卒者が増えたこと、アルバイトに頼らずに仕送りに依存する学生が増えたことなど、経済発

5. 日本語教授法の変遷

日本語能力試験が開発された1980年代まで、日本語教育の世界ではもっぱらオーディオリンガル法が用いられていました。教室活動の中心である練習もドリルでした。語彙、文法、文字など段階を追って学びます。日本語能力試験もこうした教授法を背景に、1級から4級までのレベル分けがなされたことは、その出題基準を確認すれば明確です。

特に3級日本語は、全日制による6ヶ月間の初級シラバスとして日本語教育界の事実上の標準になりました。

その後、1990年代にはタスクを基本とするコミュニカティブアプローチが中心になり、90年代半ばから大規模タスクとも呼べるプロジェクトワークも行われるようになりました。

21世紀を迎えるとピアラーニング・協働学習が盛んに行われるようになりました。

一方で、統合されたEUにおいては、CEFR（ヨーロッパ言語共通参照枠）が言語習得の統一基準としてレベル別にCanDo（できること）記述を示しました。

これらの世界の言語教育の潮流に乗って、2010年に日本語能力試験の枠組みが変更されました。N5からN1までの認定の目安は次のように説明されます。

N 1	幅広い場面で使われる日本語を理解することができる
N 2	日常的な場面で使われる日本語の理解に加え、より幅広い場面で使われる日本語をある程度理解することができる
N 3	日常的な場面で使われる日本語をある程度理解することができる
N 4	基本的な日本語を理解することができる
N 5	基本的な日本語をある程度理解することができる

日本語能力試験は、日本語の言語知識のみならず日本語によるコミュニケーション能力を測定するものになりました。言語の4技能のうち「読む」「聞く」に重点がおかれます。統計的に処理された尺度点で合格が判定されます。

IT技術の発展によりe-learningが注目されました。さまざまな分野で試みが行われ、日本語教育の世界も変わりつつあります。特に2013年ごろからは、対面授業にe-le

arningを組み合わせた反転授業が注目を浴びています。

6. 広がる日本語による交流

世界の学習者も増加を続けています。中国における反日デモの影響か、日本外交は特にASEANに目を向け始めました。2014年から従来のJICAによる青年協力隊やシニアボランティアに加えて、国際交流基金による日本語パートナーズの企画が始まりました。ASEAN諸国の教育機関（主に高校）で日本語を教える教師やその生徒のパートナーとして一定期間、日本から派遣する制度です。授業のアシスタントをしたり、日本文化を紹介したり、多くの交流を試みることができます。

世界の日本語学習者数

学習者数	3,984,538 人
機関数	16,405 機関
教師数	63,771 人

（国際交流基金 2012 年調査）

